

宇宙と人間

 ≪ 生と死の法則・
 進化と退化の法則 ≫

1. 本当の現実とは……

今まで、人間について、いろいろな説明をしてきました。そしてさらに、探っ
ていきたいと思えます。我々は今、どのような生活を送っているでしょうか。何
を考え、何を感、何を求めているのでしょうか。だれでも生きがいを持ち、明る
く落ち着いた心で過ごしたいと願っているのではないのでしょうか。でも、あなた
の毎日の現実はどうですか？普通の人、人間関係や、家庭、職場の環境、結婚
やまた子どもの成長や、自分自身の老後や健康、経済的なこと、そして社会に対
しては、国内外の政治、経済、食糧、農業、漁業、軍事と多くの問題について、
何らかの不満や恐怖を持っていると思えます。そして、人生なんてこんなもので
あるとか、だれでも何かを背負っているなどと考え、しかたがないと思ったりし
ています。現実の社会には、問題が山積しています。特に、今のような時代は、
未来に対して大きな危機感を抱いている人が大変多くあります。なぜ、こんなに
問題があるのでしょうか。それらを解決するのはとても不可能のように思われたり
します。でも、ここで深く考えてみたいのです。それらの問題はどこから起きて
くるのかを、本当の平和はないのかを。

今の社会はとても不健康な、もう大変重症な病気にかかっている社会、そのよ
うに感じます。でも、社会の在り方そのものが、まず初めに病気だったのでしょ
うか。社会もその時代時代の流れの中で変化してきました。その変化は、なぜ出
てきたのでしょうか。その時々を生きる人々が、そのように変化をしてきたと言
えないのでしょうか。社会が悪い、とよく言いますが、一人一人が社会の一員です。
一人一人の在り方が、社会を方向づけていきます。ですから、一人一人の在り方
が、社会に反映されているわけです。社会は我々の在り方を映す鏡とも言えます

し、外に表われたものは内にあるものだ、とも言えます。そうすると、現実の問題は、我々自身の内部に持っている問題とも言えます。ですから、あらゆる問題を解決できるのは、ほかでもないこの自分自身であるとも言えます。自分の内から生まれたものは、その同じ自分の内で解決がない限り、真の解決、変化は望めないこととなります。一人一人が、そのように自分と向き合う時、社会は息激な、また暴力的な革命や戦争なくして、おのずと変わっていくはずで、そして、一人一人が、本当に奥深い所から変わっていくのではないのでしょうか。問題を生むのも、解決するのも自分自身です。とすれば、解決のためには、問題を生み出す自分自身を本当に深く理解することが、まず初めに必要となります。でも我々は、自分という人間について、何を知り、理解しているのでしょうか。

自殺を例にとれば、それは肉体の死によって、すべては終わり、解決すると思っているために起こります。でも現実には、我々は死後も存在しています。それを知らないだけです。今の医学、科学でさえ、死後の存在、死後の世界について研究、調査し、多くの実証的な報告をしています。エゴについても、どれだけのことを我々は知っているでしょう。そして、これ程ひどい性の醜態についても、それによって、我々や子どもたちが、肉体的にも心理的にもいかに深い害を受け、どんな結果が待っているのかを、具体的に知らない限り、この性の醜態は続くでしょう。コマーシャルや街頭のポスターを通して、我々の肉体や心理の中で何が起きているのかを、知らなければならぬと思います。核兵器に抱く程の危険を、性の醜態に対して持つ人々がどれ程いるのでしょうか。危険だと知らなければ、人々は平気であることができます。

知らないということ、知らされないということは、本当に大変なことだと思えます。そのことに、まず気がつく必要があります。我々は眠っている時は、自分が眠っている自覚はあまりありません。井戸の中の蛙が、自分は井戸の中にいると自覚しないように、我々も自分のいる位置、自分の本当の姿を自覚するのは、とても難しいと思います。そのように、我々にとってまず問題なのは、自分が自分の現実、自分のありのままの姿を知らないところにあります。

なぜ、今、ここにいるのでしょうか。何のために生まれて来て、どこへ向かって何をしようとしているのでしょうか。だれでも生まれ、生き、死んでいきます。生まれる、生きる、そして死ぬ、それらについて、本当に知っているのでしょうか。何のために生まれてきたのかを知らず、死ということの意味を知らず、どうして本当に生きることができるでしょう。我々は無知の暗闇の中におかれています。

2. なぜ生まれ、どこへ行くのか。

我々は、理由があって生まれて来ました。それは進化をするためです。1号の3ページに、進化の方向を示す図がありますが、人類はまだ、本当の「人」にはなっていない存在です。本当の「人」、それはエゴを持たない、真実の愛を知っ

ている人のことです。ですから、我々は心の汚れ、心理的な汚れを落とし、エゴを根絶しなければなりません。そして、今よりも有益な存在になるように、進化していくために生まれて来ました。何度も転生をくり返しながらか、最終的に魂の故郷へ還るために、この進化の修業を積み重ねているわけです。

私は一人の人間だ、とだれでも思っています。でも、その私とはだれでしょう。私を含めてですが、皆さん一人一人の中には、とても多くの「私」がいませんか？いろいろな「私」の魂がありませんか？これはいったい、どういうことでしょうか。これが、我々の魂をとり囲み、「私自身」を支配してしまおうと争っている、私のエゴたちであり、エゴの姿です。ですから、その時々によって、一番力を持ったエゴが、私の意志や気持ちであるように、私自身を操っているのです。そして、我々は、操られた私が、本当の自分自身だと思っています。でも、本当は、エゴのところにされ、統一された人格も持っていないのです。今のままでは、人間同志が、本当に理解し合い、尊重し合うことなど、無理ということになります。我々が進化するためには、まずエゴをなくさなければなりません。エゴは非常に強いエネルギーであり、とても重いものです。だから、我々の魂の上昇、進化を心理的にだけでなく、物理的にも妨げています。このエゴを打ち破っていくためには、我々の中で最大のエネルギーである性エネルギーを使う以外にはありません。しかし、すべては、一人一人が自分に与えられた自由によって決めていくものです。強制するものは何ともありません。自由を使って、どこへ向かうかを、自分が決心し、その結果は、自分の責任として受けとるだけです。進化したならしたように、しなければしないように、進化の道を進むか、戻るかです。この道の逆戻りが退化です。我々には、無制限に転生の時間が与えられているではありません。最終的には、進化をし、魂の故郷へ至るか、退化して、愚く積み重ねてきたものを、自分に小さな所できれいにさせられるか、どちらかになります。



心理的付着物

我々のマインドに属する多数のエゴ達が我々をおどろくほど強い存在としている。彼らは我々に寄生し、エネルギーを消費させ、我々を破壊とする。

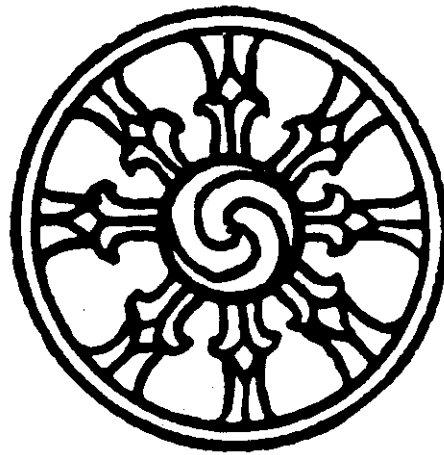
3. 創造と進化

創造の法則

人間は、肉体、霊、魂を持っています。魂は能動的であり、完全に+（ポジティブ、プラス）の要素です。肉体は受動的であり、-（ネガティブ、マイナス）の要素です。そして、霊、心理が、この+と-を中和する媒体（0）です。この3つの要素で人間が成り立っていますが、人

体を構成している60兆もの細胞の1つ1つが、+、-、0の3つの要素を持っています。そして、自然界のすべての中で、最も小さいものである原子、水素などの

すべての原子も、+（陽子）、-（電子）、0（中性子）から成り立っています。この世界すべては、極小から無限大に至るどの次元においても、この3つの要素が成り立っています。これが創造の法則であり、3の法則です。この3の法則、三位一体は多くの宗教に見られます。そして、前号でも説明した7の法則、オクターブの法則は、創造されたすべてのものにあてはまる法則、被造物の秩序の法則です。我々の世界は、この3と7の法則で成り立って



●法輪 仏陀の教えまたは法々の象徴
 積極性、消極性、均衡の三つ目である。
 ●ジ・マン・ブローフェルドの画
 (ロ)一九七〇年



●中世のシトー派修道院の扉を飾る三つ目。
 ●ヴァル・ナリエル、セーヌ・エ・オワズ、フランス。

います。日常生活に深く係わっている3と7という数について調べてみるのも、おもしろいと思います。単純な数が、大変深い意味を含んでいます。そのようなことは日常生活の中に、たくさんあるのではないのでしょうか。

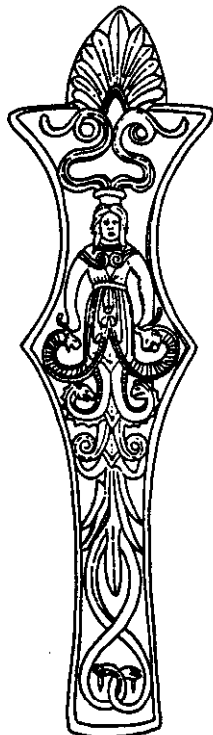
創造という神秘的な再生

もう少し、3の法則について説明してみます。1号

AIN	+	1	父	太陽エネルギー	ハート
AIN SOPH	-	2	母	月エネルギー	仙骨(クンダリーニ)
AIN SOPH AUR	0	3	子	性エネルギー	性腺

の3ページの創造の三位一体の図をもう一度見てください。

創造、AINは、 𐌆 であり1です。これを別の言葉で言えば、能動性、和合、統一ということであり、創造主である父、そして我々の魂の起源です。



馬面 女神アビを表わす。大ツイン パルカクルガン出土。

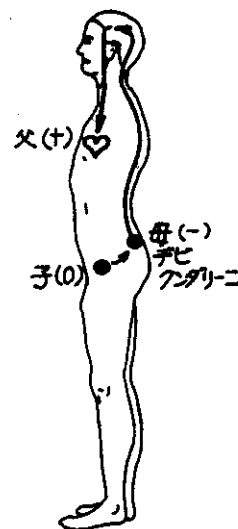
2であり 𐌆 であるAIN SOPHは、二元性、陰陽であり、受動性です。聖なる母です。前号で説明したように、この聖なる母は、我々の仙骨にあるクンダリーニのことです。これは日本で言えば観音さま、西洋で言えばマリアさま、エジプトではイシスと呼ばれます。古代アステカでは、トナンツィンと呼ばれました。これが我々の内にある母なる神であり、世界中に、蛇信仰、竜神信仰の形で、また、聖なる蛇として、多くの遺跡が残されています。このクンダリーニは、我々の内に潜在している電気的な力であり、霊気的な火のことです。

3であるAIN SOPH AURは、三位一体、(Δ)であり、中性です。聖霊、子です。

十は、我々のハートにある内なる父であり、魂であり、太陽エネルギーです。

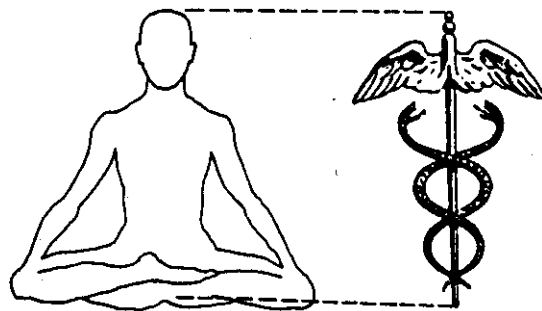
一は、我々の仙骨にあるクンダリーニ、内なる母であり、月のエネルギーの影響下にあります。

0は、我々の性腺にある中性な性ホルモンであり、子にあたる力、聖霊です。この、父、母、子の三位一体が成されるということは、この性エネルギー(性ホルモン)が母をばらませ、父に上昇するという、つまり、性エネルギーの昇華ということを意味します。性ホルモンを変換し、再吸収することです。我々は、性腺の中に非常に強力なエネルギーを持っています。この





性腺（子）から仙骨（母）へ、
 仙骨（母）から背骨を過って脳
 へ、脳からハート（父）へ、と
 いう性エネルギーの上昇は、エ
 ジプトのファラオ（王）の持つ
 杖（ ρ ）が、象徴的に表わし、
 教えています。また、マーキュ
 リー（神の使い）の杖としても
 表わされます。これは、オリ
 ーブの木にからみあう、翼をつ



けた2匹の蛇の形です。このことは、性エネルギーである生命の水と、クンダリ
 -ニの霊的な火という2つのエネルギーを交差させることによって、本当に純粹
 で、パワーのあるエネルギーを生み出していく、再生していくという、神聖な性
 の真実を教えています。この2つのエネルギーの交差ということは、十字形で象
 徴されます。そして、母と父のエネルギーを本当に交差させることによって、我
 々の心理を支配している月の影響を除外し、魂の本当の洋服である黄金の太陽体
 を創っていく、ということの意味をしています。性ホルモンは、ホルモンとしての

物質的な動きだけでなく、エーテル(霊)としての動きも持っています。ですから、霊的な、心理的な再生も可能なのです。この詳しい説明は性のテーマの時にありますが、この神聖な知識は、世界中のあらゆる文明、民族の歴史、宗教の中に見られます。西洋の錬金術、中国の神仙思想、錬丹術、日本の古神道、密教、そして一般的には、文明以前と思われる世界各地の原住民たちの遺跡や歴史の中にも秘められています。

注意して周囲を見てみると、ごく身近に多くの象徴的なものを発見すると思います。鎌倉には、銭洗い弁天があります。



西洋の錬金術テキストの図



龍の背に乗る仙人 漢画像石『金石業』より。

これが聖なる母です。アステカのシンボルでもあるトナンツィンと同様、3回半、とぐろを巻いている蛇が描かれています。そしてここには、2匹の白い蛇が、とぐろを巻いて卵を抱いている像があります。川崎には、釜山神社があります。日本各地で見られる男根崇拝の神社です。“まら”という言葉は魔羅という梵語で、男根を意味します。

男根で象徴される性エネルギーを黄金にするという錬金術的な意味合いを、名前からだけでも感じることができます。相撲の横綱は、腰の所で綱が円になって結ばれています。この綱は、2つのエネルギーの交差、性エネルギーを表わし、上向きの円は、太陽と性エネルギーの上昇を表わします。アステカ時代の像も、腰の所に蝶々をつけています。日本の福祿寿の細長い頭は、エジプトのファラオ(王)たちの長く伸びた頭と同じく、男根、昇華された性エネルギーを表わします。私の郷里には、羽黒山という山伏の修験の山があります。そこには頭上に鳥居と、老人の顔をした蛇がとぐろを巻いている弁天像があります。また羽黒神という、やはり老人の顔を持つ白蛇がとぐろを巻いた形の弁天像もあります。この山の入口の石燈籠は、正面が三日月、後側が丸、太陽の形で、くりぬかれています。しかし、山頂では、正面が太陽、後側が三日月になっています。これは、昇華され、父にまで至った性エネルギー、そして月の影響を脱して太陽へ至る、そのような再生を意味しているのではないのでしょうか。



世界各地に、蛇の上半身や頭を持つ母神の像が残されています。中国には、一匹の蛇が背後から頭頂に、はい上がっている土器があり、ヨーロッパには、十字架に、からみ合った蛇が描かれたものがあります。多くの宗教で見られる歡喜仏（男女結合の像）も、神聖な性を象徴しています。

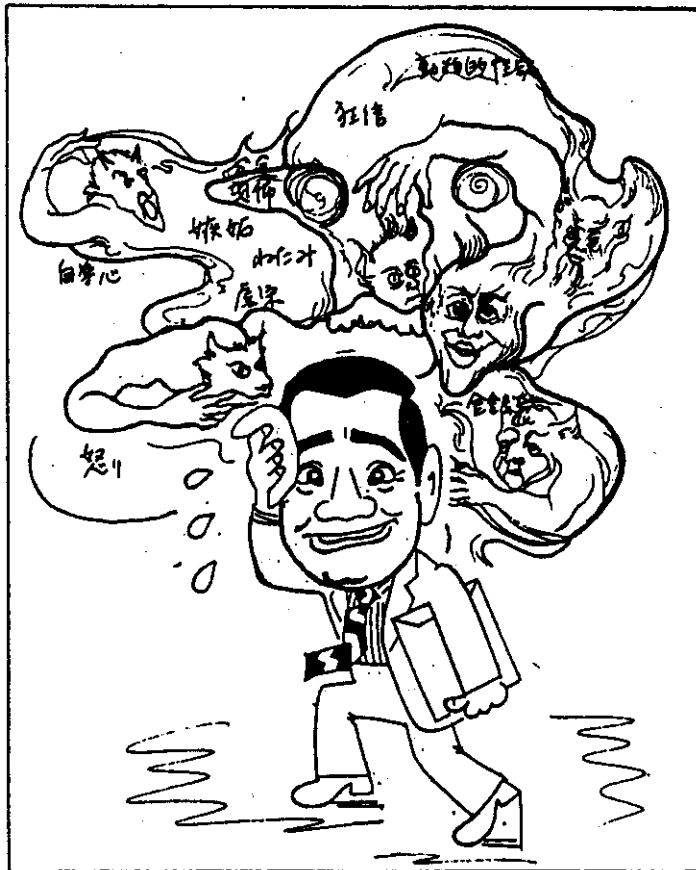
このように、我々に伝えられ残されたものを見る時、一つの宗教のシンボルや教えと思われていたものも、実はそうではなかったということがわかってくると思います。キリスト教のものと思われている十字架も、キリスト教以前から存在していました。この十字という形の持つ深い意味については、またとりあげたいと思

ます。

進化のための内的な仕事

我々の目的は、進化をし、その起源に戻ることだと書きました。人間の必要とする進化は、肉体的なものではなく、また社会の物質的な、技術的な進化ではありません。内的な進化です。一人一人が、表面的でない己れの現実を知り、その現実から立ち直り、内的な存在としての自分を発見し、生まれ変わる、再生していく、そのような進化です。再生のためには、まず死ななければなりません。そして、生まれなければなりません。それから真なる幸福、平和のために生きなければなりません。これはどういうことかと言うと、死ぬ、それは己れのエゴの死、すべてのエゴの根絶ということです。それによって初め

その起源に戻ることだと書きました。人間の必要と

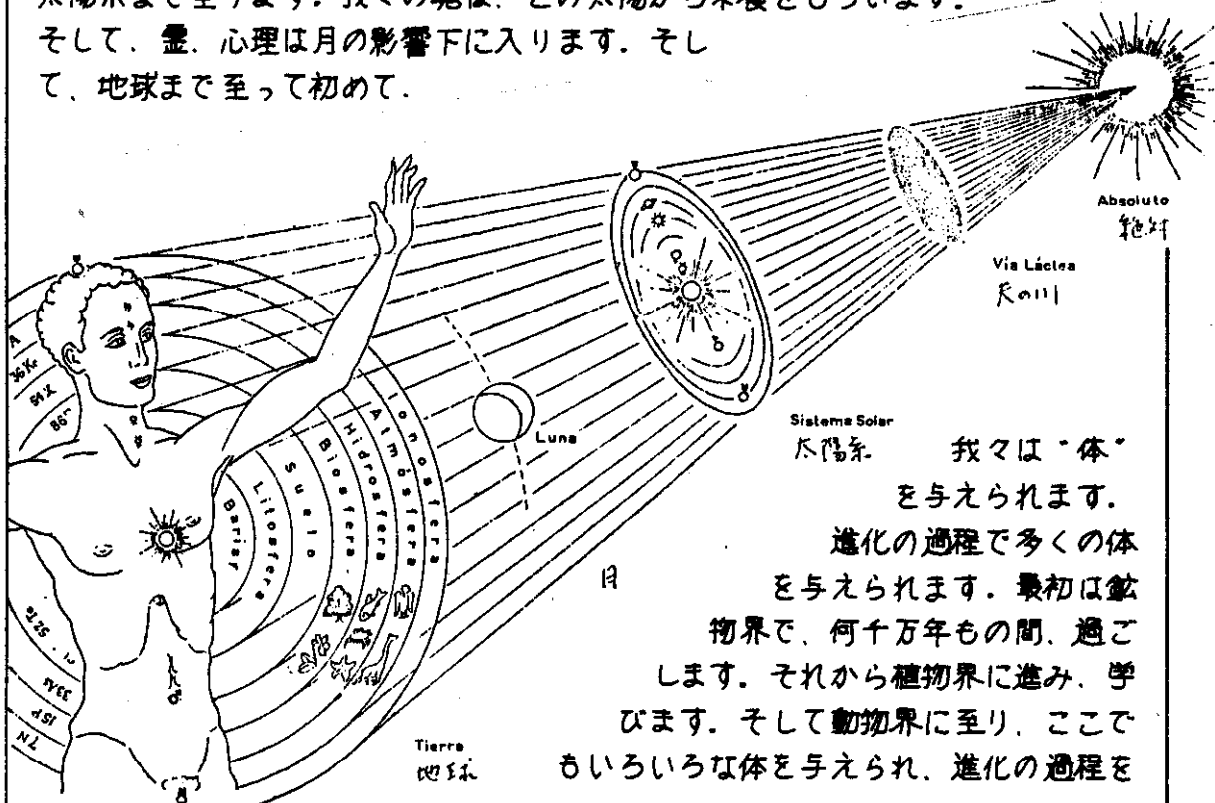


て、真の自由になれるのです。東教絵画の中で骸骨が足元などにたくさん描かれているのは、このエゴの死を表わします。武士道の死、神秘的な死も、この心理的なエゴの死を意味します。エゴをなくしていくには、まずエゴを持つ自分を正しく知り、理解する必要があります。そのために、自分で自分を観察してみましよう、提案しました。エゴは我々を誘惑することによって、我々自身の心理的な仕事、自分相手の進化のための仕事を促しています。エゴさえも、我々の進化のために、我々を縛っていく機会を与えています。

生まれる。これは性エネルギーを創造的に変換させ、昇華させることによって、自分の内部に聖なる子、内なる子を生むことです。霊的な、自覚めた内なる子を生み育てることです。マリア様や、観音様と一緒に描かれる子ども、これがその内的な誕生を表わしています。錬金術で言う黄金の子どもです。このように、我々の生まれて来た目的は、自分のはっきりとした意識を持ってこの三位一体を成し、魂の故郷、起源に戻るといことです。これが進化です。進化のための3つのこと、エゴ根絶、性エネルギーの昇華、人類への献身、これをノーシスは総括的に教えています。

進化のプロセス（過程）と退化

我々は、創造から放たれた生命の火花とも言える魂の光として誕生しました。その創造、絶対太陽（宇宙の父）から旅立ち、天の川に至ります。これが、マハクワンダリーニ、宇宙の母であり、牝牛で象徴されます。それから銀河系を通り、太陽系まで至ります。我々の魂は、この太陽から栄養をもらいます。そして、霊、心理は月の影響下に入ります。そして、地球まで至って初めて、



進みます。そして次に、人体が与えられます。ですから、我々の人体は、地球と同じ、12種のミネラルを体内に持ち、また、地表の水と土の割合が7対3であるように、体内には約70%の水分があります。そして49段階ある潜在意識には、創造と自然界についての知識が秘められています。ここまでは、自然のサイクルによる進化です。ここから、魂の故郷へ戻る進化の過程は、意識を持って進むべき道です。自分自身が進化することによって、初めてそれが可能となります。肉体は、進化のためのすべての変換を成し得る、かけがえのない研究室、創造のへやです。霊、心理は、エゴの誘惑に勝つことによって、内的な心理浄化、進化をしていきます。魂は、我々を内的に進化へと押しています。でも、現実には、エゴが魂をがんじがらめにしています。魂だけでは、進化することはできません。

人体を与えられる時間が終わった時、進化していなければ、もと来た方向へ進みます。この進化の過程の逆戻りが退化です。でもそれは、罰ではありません。退化した自分が最も磁氣的に引きつけ合う所、周波数の合う所に行くのですから。ただ、退化のために積み重ねて来たもの、それらを浄化させられるために行きます。退化にしる、進化にしる、受けとる結果が、自分のあるべき所と違うことはありません。進化は、自分が望んでするものです。ノーシスは、そのために必要な知識をお伝えするだけです。

4. ノーシスと現代

今の学校教育は、物質的で生産主義的な社会に合わせた教育、管理的で受験という狭い、目先だけを見た教育をしています。過度な知識の詰め込みによって、人間が持っている多くのことをしばませ、眠らせていると思います。

今の主流をなす医学、科学、心理学は、唯物的で物質と内体のみを扱っています。見えないもの、理屈で説明できないものは、事実でも否定する非科学的な姿勢です。医学は、人間の体、病気の起源について、本当のことを知りません。悪い所は切り捨て、機械の部品をとりかえるような感覚で臓器移植や性転換を行い、遺伝子の組み換えさえしています。そして、心理学も、人間の心の実在を認めずに、人々の心理を研究しています。科学といえ、それは科学技術のこととさえ思っているようです。世の中全体が、人間の真の成り立ちを認めるといことが、ないわけです。

宗教の多くは排他的で、御利益という名目で、信者から搾取しています。狂信的、盲信的であったり、商売のようであったりします。一つの宗教、宗派が、人々をバラバラにし、ひとりよがりにならせてしまっています。

芸術も、今は大変商業化され、売れるもの、大衆に受けるもの、表面的で刺激的なもの、そういうものが權をきかせています。

これは批判のために言っているのではなく、冷静に現実を見ればそうであるということです。本当の科学、純粋科学は、不可知の次元、宇宙と自然界、人間と

●太陽の石(アステックカレンダー) メキシコ
 神聖な生から現在の我々の時代に至るまでの数々の太陽の時代と
 人類の歴史を刻みこんでいる(石の彫刻)。



生きものすべての成り立ちを解明するものです。眞の宗教、精神主義は、1つの何となく教や宗派などではありません。眞実の宗教は、人間が自分を内的に開発し、自分を本当に理解し、それにより他人を本当に理解し、そして神へ至るためのものです。神と自分を、直接結びつけるものです。多くの宗教の違いは、その時代、その土地の人々が、そのように生きるのに最も適した教え方で行われたのであって、もとは1つから生まれて来たのです。今は、その歴史も、起源も、本当の教えも忘れ去られてしまっています。芸術は、我々の最も神聖な魂の表現であり、魂を通しての神からのメッセージを表現したものです。インスピレーション(靈感、啓示)という言葉は、空気を吸うという意味があります。神が人間に及ぼせる恩化とも言えます。母親が受精してすぐの呼吸、最初に吸う息と共に、胎児に魂が宿ります。これを聖なる氣息と言います。ですから、芸術作品を制作していく時のインスピレーションは、神から直統的に与えられ、完成された作品には、神からの魂のメッセージが秘められているものです。ですから眞の芸術は、音楽でも彫刻でも絵でも、魂の栄養となります。

純粹な科学、眞の宗教、精神主義、芸術が本当の哲学—人間が正しく生きていくための秩序—を生んでいきます。これらのどれが欠けても、個人も社会全体も調和を失い、失敗してしまうでしょう。

古い時代の人々は、進化ということを知っていました。そのような教育、知識の伝達が行われていました。しかし、人類の頑廃とともに、その神聖な教えは秘密に、秘教的に、ごく限られた人々の間で伝えられるようになりました。それらの教えを示す偉大な建築、彫刻、文献などは世界中に存在しています。けれども、人々にとっては、それらの意味も知識も理解できなくなっています。でも、今は、求めるすべての人に知らされるようになりました。それが総括された近代的ノーシスです。ノーシスが教えていることは、1つの宗教、宗派などとは違います。1人1人の内的進化、再生をめざしています。もし、宗教という面からノーシスを語るなら、それはすべての宗教の故郷、起源だと言えます。ノーシスによって得た知識の鍵で、自分の信仰する宗教について、さらに奥深い信仰につながる扉を開くことができるでしょう。また別の人には、ノーシスは完全なる自由、解放に至る道だと言うかもしれません。また、すべての文明の謎を解く鍵、あるいは、眞に自分を理解する手だて、宗教と科学を1つにするもの、宇宙の秘密を明かす鍵、と人それぞれの言い方をするでしょう。

ノーシスは、すべての宗教、すべての科学、文明を、すべての民族を1つに結び合わせるものです。そして、どのような時、どのような物事を通してであれ、すべての中からその経験を生かし、学んでいくことを教えています。

自分の内にも、外にも目を向けて見ませんか。

